

# 2009年度(2010年3月期) 決算説明会



2010年5月17日  
大正製薬株式会社  
会長兼社長 上原 明

# 2009年度通期決算：概要



2009年度通期：損益の概要

(億円)

	08年度	09年度	対前年同期増減		対予想*
売上高	2,562	2,584	+22	+1%	▲6
SMG*	1,611	1,589	▲23	▲1%	▲0
医薬事業	951	996	+45	+5%	▲5
営業利益	379	347	▲32	▲9%	+12
経常利益	399	367	▲32	▲8%	+12
当期純利益	88	195	+107	+121%	+10
EPS(円)	30.0	68.0	+38.0	+127%	+3

注：数字は億円未満四捨五入

\* SMG：セルフメディケーション事業

\*2010年1月発表の予想対比

# 2009年度の概況(1)



## ・ セルフメディケーション事業

- リポビタン、パブロンシリーズが振るわず
  - ・ 新型インフルエンザ、冷夏のほか、冬場の感染症の流行と花粉症が低水準だったことが影響
- リアップシリーズは新発売のリアップX5が寄与
- 販売制度改正とそれに伴う変化: OTC医薬品を取り巻く環境が大きく変わった1年

### <ご参考:市場の状況>

- OTC医薬品市場:前年同期比 2%減
  - ・2008年度に続き、2年連続のマイナス

# 2009年度の概況(2)



## ・ 医薬事業

- 大正富山医薬品は過去最高の売上高(864億円)を計上
- ゾシン、ジェニナックの売上増加が寄与
- 2009年度の抗菌薬市場\*では大正富山医薬品が念願のトップに  
(\*J01抗菌薬市場)

### <ご参考:市場の状況>

- 医療用医薬品市場:前年同期比 6%増
  - ・当社の主力市場である抗菌薬市場は 4%減  
(経口4%減、注射4%減)

# 2009年度通期：売上高・利益の増減要因



(前年同期比増減額)

<p>売上高 (+22億円)</p>	<p><b>セルフメディケーション事業 (▲23億円)</b> (主な増減要因) OTC薬等 ▲39億円 (うちアジアOTC +8億円) 予防関連雑貨等 +4億円 リビタシリーズ +5億円 海外ドリンク剤 ▲2億円 通販 +7億円</p>	<p><b>医薬事業 (+45億円)</b> (主な増減要因) 大正富山医薬品 +47億円 ロイヤルティ収入 ▲11億円 中間製品等 +7億円</p>
<p>営業利益 (▲32億円)</p>	<p>売上総利益*: 28億円の減少 販管費: 5億円の増加 (うちアジアOTC関連** +11億円) 内訳 研究開発費 +6億円 販促費 +7億円       広告宣伝費 ▲1億円 人件費 +5億円       その他 ▲12億円</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損失は7億円減少(前年同期46億円→当期39億円)</p>		

\* 返品調整引当金繰入・戻入調整後

\*\* 大正製薬インドネシアの販管費(+3億円)と商標権・販売権・のれんの償却(+8億円)

# 主要ブランドおよび製品の売上高



(億円)

	09年度 通期	対前年 増減額	対予想*
リポビタンシリーズ	708	▲40	+1
パブロンシリーズ	249	▲5	▲6
リアップシリーズ	127	+13	0
ナロンシリーズ	44	0	▲1
胃腸薬シリーズ	43	▲1	▲1
コーラックシリーズ	39	0	▲1
リビタシリーズ	31	+5	0
クラリス	233	▲7	▲11
パルクス	108	▲3	▲2
ゾシン	107	+67	+5
ジェニナック	48	+11	▲6

注: 数字は億円未満四捨五入

\*2010年1月発表の予想対比

# 2010年度：通期業績予想



(億円)

	2Q累計 予想	通期 予想	前期比増減	
売上高	1,295	2,620	+36	+1%
SMG*	844	1,672	+83	+5%
医薬事業	451	948	▲48	▲5%
営業利益	165	360	+13	+4%
経常利益	180	405	+38	+10%
当期純利益	105	245	+50	+26%
EPS(円)	37.4	87.2	+19.3	+28%
(参考)				
大正富山医薬品売上高	403	835	▲29	▲3%

注：数字は億円未満四捨五入

\*SMG：セルフメディケーション事業

# 2010年度の方針と展望(1)



## ・ セルフメディケーション事業

### － 主カブランドの強化で収益を確保

- ・ リポビタンシリーズの強化

- ・ リアアップシリーズ：

日本皮膚科学会が4月に発表した

「男性型脱毛症診療ガイドライン(2010年版)」

推奨度Aとなったもの		
男性の男性型脱毛症	ミノキシジル外用	フィナステリド内服
女性の男性型脱毛症	ミノキシジル外用	

\*推奨度A = 行うよう強く勧められる(少なくとも1つの有効性を示すレベル I  
もしくは良質のレベル II のエビデンスがあること)

### － 新規カテゴリー・新効能等の展開による セルフメディケーション市場拡大の取り組み



# 2010年度の方針と展望(2)



## ・ 医薬事業

- 感染症領域:リーディングカンパニーとしての地位を確固たるものに
  - ・ 幅広い製品ラインアップ
  - ・ 継続的な新薬の投入
- 炎症・免疫領域:強固な基盤を構築
  - ・ 感染症領域に続く第2の柱に
- 創薬～開発～営業の連携強化
  - ・ 求められる新薬の創出

# 2010年度通期予想:売上高・利益の増減要因



(前年同期比増減額)

<p>売上高 (+36億円)</p>	<p><b>セルフメディケーション事業 (+83億円)</b> (主な増減要因) OTC薬等 +70億円 (うちアジアOTC +35億円) リビタシリーズ +4億円 海外ドリンク剤 +5億円</p>	<p><b>医薬事業 (▲48億円)</b> (主な増減要因) 大正富山医薬品 ▲29億円 ロイヤルティ収入 ▲1億円 中間製品等 ▲17億円</p>
<p>営業利益 (+13億円)</p>	<p>売上総利益*: 16億円の増加 販管費: 3億円の増加(うちアジアOTC関連** +20億円) 内訳 研究開発費 ▲60億円 販促費 +10億円       広告宣伝費 +8億円 人件費 +6億円       その他 +38億円(うちアジア関連償却費 +12億円)</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損益は改善を見込む(39億円の損失→21億円の損失)</p>		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後

\*\* アジアOTC2社の販管費の増加分(+8億円)と商標権・販売権・のれん償却の増加分(+12億円)

# アジアOTC事業について



- ・ 大正製薬インドネシア（旧BMSI）とシンガポールのアジアOTC統括会社にて、旧体制からの引き継ぎ、スムーズな滑り出し
- ・ 損益への寄与
  - 2009年度：損益計算書は3ヶ月分計上  
（大正製薬インドネシア分の売上8億円）  
のれん等償却は9億円
  - 2010年度：売上43億円、営業利益20億円  
のれん等償却20億円で  
営業利益ベースは収支トントン

# 主要ブランドおよび製品の売上高



(億円)

	2010年度 2Q累計予	2010年度 通期予	対前年 増減額
リポビタンシリーズ	405	718	+10
パブロンシリーズ	98	250	+1
リアップシリーズ	69	135	+8
ナロンシリーズ	24	47	+3
リビタシリーズ	17	35	+4
クラリス	95	220	▲13
ゾシン	59	120	+13
パルクス	51	100	▲8
ジェニナック	20	50	+2

予=予想

注:数字は億円未満四捨五入

# セルフメディケーション事業：新製品



## <2010年度：新製品の見通し>

<p>&lt;第1四半期&gt; リポビタミンシリーズ 外用剤 など</p>	<p>&lt;下期&gt; 新規カテゴリー 生活習慣病 新効能</p>
<p>&lt;第2四半期&gt; ゼナシリーズ リビタシリーズ など</p>	<p>リポビタミンシリーズ シガノンシリーズ など</p>

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



国内

(2010年5月14日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
申請中			
クラリス錠200 (経口)	<u>マクロライド系抗生物質</u> 3剤併用*1による胃MALTリンパ腫、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、及び特発性血小板減少性紫斑病におけるヘリコバクター・ピロリの除菌(適応追加)	3剤併用療法に係る9社*2による公知申請	大正製薬
CT-081* (経口)	<u>活性型ビタミンD3誘導體</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	中外製薬
フェーズ2/3			
CT-064** (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

\*CT-081: 中外製薬における開発コードはED-71、中外製薬が申請

\*\* CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

\*1 プロトンポンプ阻害薬(ランソプラゾール、オメプラゾール、ラベプラゾールナトリウム)及びアモキシシリン水和物を用いた3剤併用

\*2 大正製薬、アボット ジャパン、アステラス製薬、アストラゼネカ、エーザイ、協和発酵キリン、塩野義製薬、武田薬品工業、田辺三菱製薬

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2010年5月14日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
TS-071 (経口)	<u>SGLT阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬

\* CT-064: 中外製薬における開発コードはR484

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(3)



## 国内(続き)

(2010年5月14日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2(続き)			
TS-022 (外用)	<u>プロスタグランジン誘導体</u> アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬

## 海外

(2010年5月14日現在)

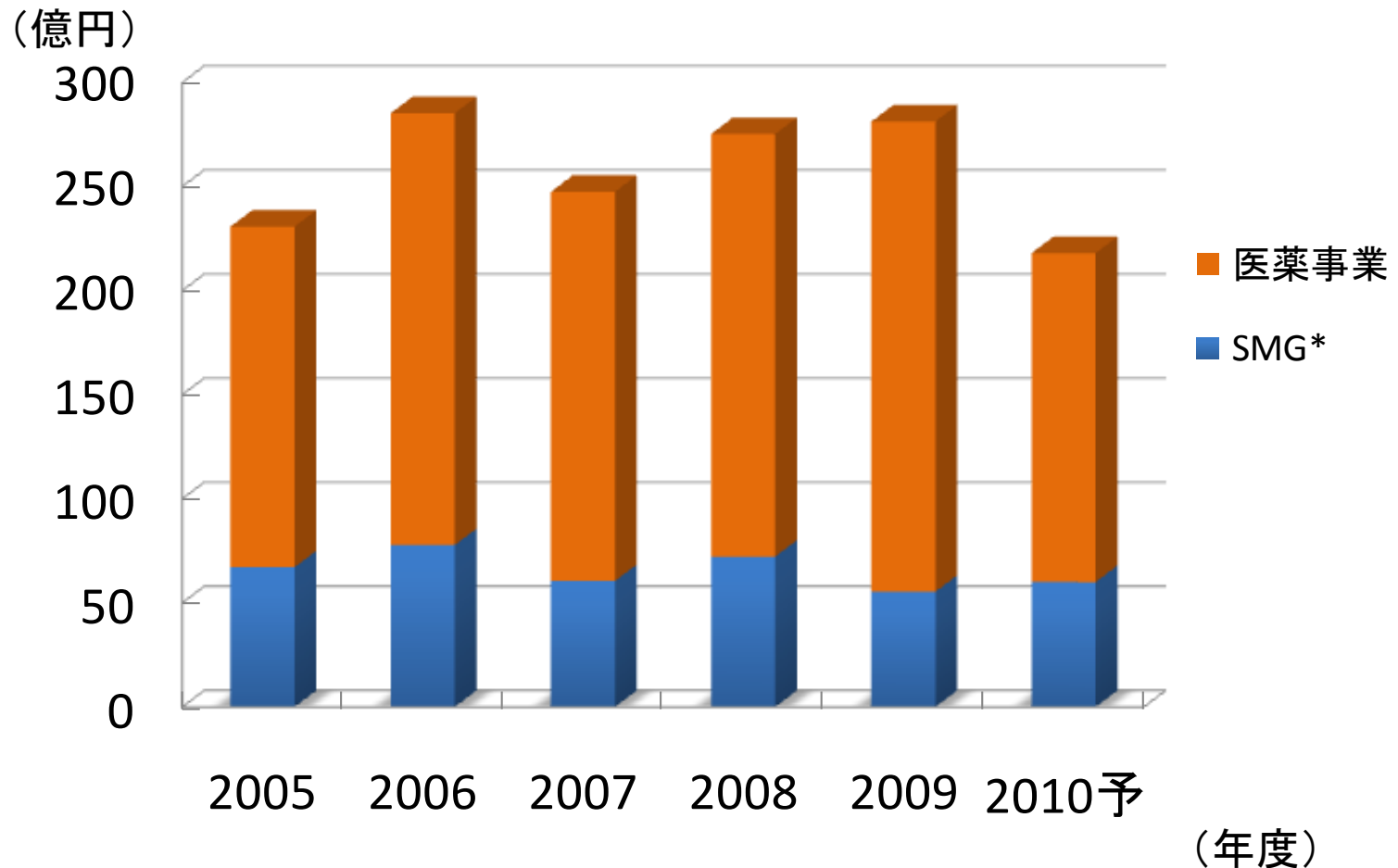
	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
TS-022 (外用)	<u>プロスタグランジン誘導体</u> アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬



# 研究開発費の動向



2010年度は減少の見込み

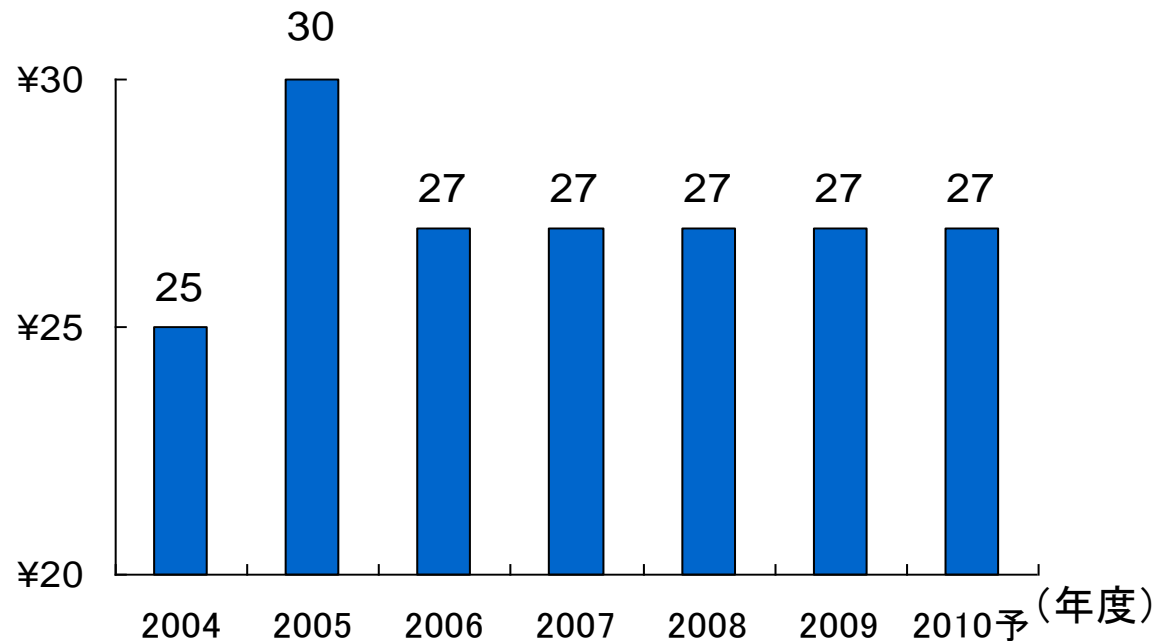


\* SMG:セルフメディケーション事業

# 株主還元・自己株式

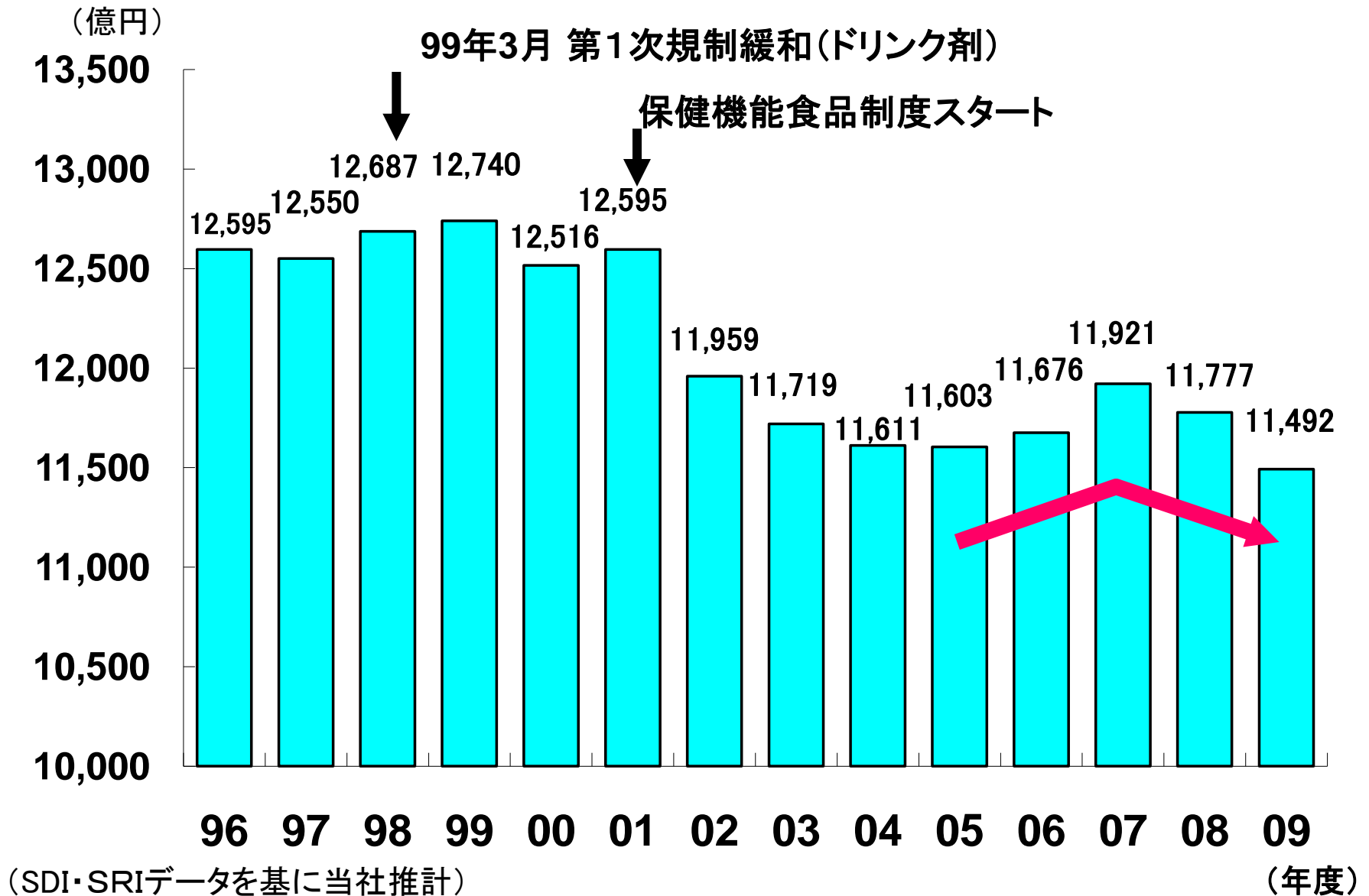


- ・ 株主還元の方針に変更はない
- ・ 配当
  - 2010年度も年27円/株を予定(配当性向31%)
- ・ 自己株買いを実施(2010年3月～)



1株あたり配当金の推移

# OTC医薬品市場の推移



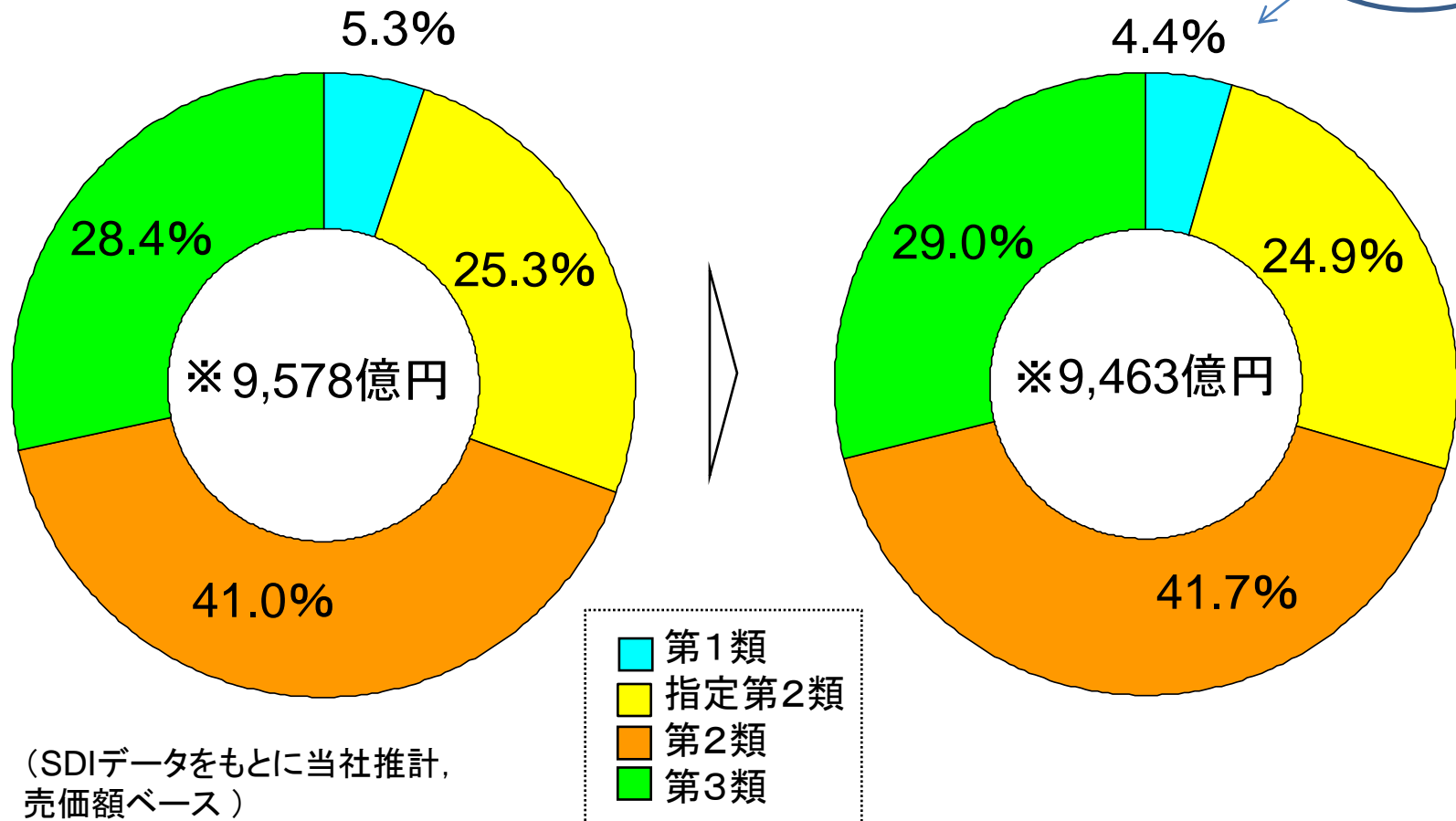
# OTC医薬品分類別構成比



国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く  
(2008年度通期)

(2009年度通期)

第1類の  
前年比  
82%

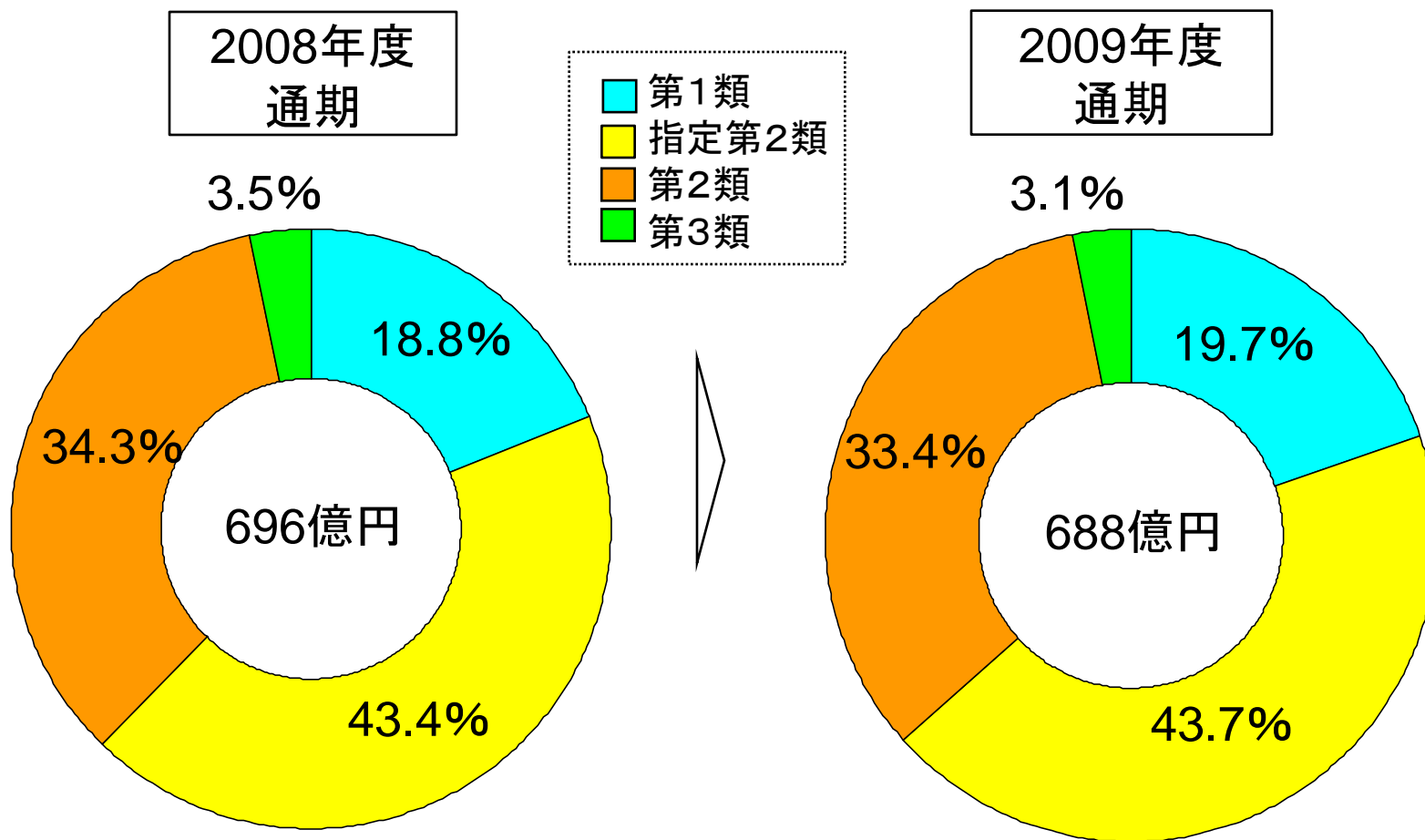


(SDIデータをもとに当社推計,  
売価額ベース)

# 当社の分類別売上構成比



- 2009年度の第1類医薬品売上はリアップX5等の発売もあり、前年比増加、第1類医薬品の比率も上昇(2008年度18.8%→2009年度は19.7%)



# OTC医薬品販売制度改革のその後



- ・ 販売制度改革：50年に1度の大きな変化
  - ・ 今回の改正でインフラはできた
  - ・ 実際の運用が軌道に乗るには、もう少し時間が必要
- ・ 第1類医薬品の売上高
  - ・ 昨年6月以降、下落したが・・・
  - ・ 業界（小売りを含む）では収益向上には第1類が不可欠という認識で、第1類の売上をいかに上げていくかに取り組んでいる
- ・ 新規参入：当初見込みより低い
- ・ 第1類の新製品：期待高まる生活習慣病領域

# セルフメディケーションの推進



- ・ セルフメディケーションに対する期待の高まり
  - ・ 財政問題
  - ・ 高齢社会への対応
- ・ セルフメディケーションの推進に向けて